

C ' S M A I L

VOL. 70

 **コスモ石油株式会社**

株主通信《シーズ・メール》WINTER 2011

第106期 第2四半期 事業のご報告

平成23年4月1日～平成23年9月30日



※億円未満四捨五入

Cover Story

カバーストーリー

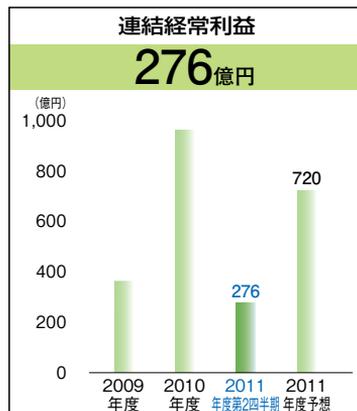
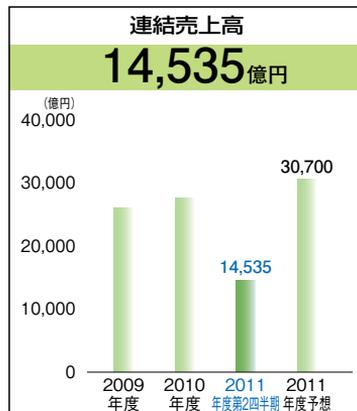
●ミラノ イタリア

表紙のイラストは、当社グループがALA配合液体肥料を販売しているイタリアをモチーフにしました。イタリア・ミラノのシンボルともいえるゴシック様式の大聖堂、ドゥオーモやプロサッカーチーム、インテルのホームグラウンドであるサン・シーロ競技場などで構成しました。

表紙イラスト 古田 忠男



※自転車の世界を旅するのが趣味の「ALAちゃん」。今も世界のどこかで緑を育てています。



(単位:億円)

	2009年度	2010年度	2011年度第2四半期	2011年度予想
連結売上高	26,121	27,715	14,535	30,700
連結営業利益	342	1,041	275	740
連結経常利益	364	961	276	720
連結四半期(当期)純利益	-107	289	28	130

第106期(2012年3月期) 第2四半期連結累計期間 財務・業績のご報告



代表取締役会長(左)
岡部 敬一郎

代表取締役社長(右)
木村 彌一

株主の皆様におかれましては平素よりご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当社の第106期、第2四半期連結累計期間(2011年4月1日～2011年9月30日)(以下:当第2四半期)の財務・業績の概要について、ご報告いたします。

●当第2四半期の事業概要について

当第2四半期における国内経済は、東日本大震災による被害やその後の電力不足等による景気の停滞から持ち直す動きが見られましたが、米国経済の回復の遅れや欧州の金融不安等による円高・株安の進行等により、景気の先行きは不透明な状況が続きました。当社グループの事業環境については、原油価格は北アフリカ、中東地域における政情不安等国际情勢の緊迫化を背景に急騰し、当社の受入原油コストは1バレル110.38ドルと前年同期比34.70ドル上昇しました。為替相場については、欧州の金融危機や米国の景気低迷を反映するかたちで円高が急速に進んだ結果、1ドル80.60円と前年同期比9.50

円の円高となりました。国内の石油製品需要は、軽油については復興需要による販売数量の増加が見られたものの、その他の油種では震災による需要減少で販売数量は低調に推移しました。

●コスモ石油グループの営業概況

当第2四半期の連結経営成績については、売上高1兆4,535億円(前年同期比1,560億円増収)、営業利益は275億円(同22億円減益)、経常利益は276億円(同9億円増益)また、特別損益及び法人税等を差し引いた四半期純利益は28億円(同15億円増益)となりました。

営業概況を事業セグメント別に解説しますと、石油事業については、軽油・ナフサの販売数量は前年同期比で微増しましたが、ガソリン、灯油、ジェット

燃料油等は減少しました。コスモ石油個別の国内燃料油の総販売数量は前年同期比96.8%となり、中間留分の輸出数量は震災後、国内への供給を優先したこともあり、前年同期比24.6%と大幅に減少しました。

上記に加え、千葉製油所の稼働停止に伴う代替供給コストが発生し、石油事業の経常利益は前年同期比で20億円の減益となりました。一方、石油化学事業については、主にパラキシレンの市況回復に伴い、前年同期比で29億円の増益、石油開発事業においても原油価格の上昇を主な要因として前年同期比60億円の増益となりました。

当第2四半期末における連結の財政状態につきましては、総資産は1兆6,088億円となり、前期末比294億円増加しました。これは、冬場の需要期に向けた在庫の積み上げや、販売数量の減少に伴い、たな卸資産等が増加したことが主な要因です。純資産は3,437億円と前期末比65億円減少し、自己資本比率は20.2%となりました。

続いて連結キャッシュ・フローについて解説します。営業活動によるキャッシュ・フローは、税金の支払い時期のずれ込みによるプラスの影響が269億円あり、201億円のプラスとなりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産等の

■連結業績サマリー

(単位:億円)

	2011年度第2四半期	前年同期比
連結売上高	14,535	1,560
連結営業利益	275	-22
連結経常利益	276	9
在庫評価の影響	131	260
ネット連結経常利益	145	-251
連結四半期純利益	28	15

取得に伴う支出等により、147億円のマイナス、財務活動によるキャッシュ・フローは、主に短期借入金増加により、118億円のプラスとなりました。以上の結果、当第2四半期末の現金及び現金同等物の残高は、前期末比166億円増加の1,109億円となりました。



●2012年3月期 通期の見通し

当社グループは、「第4次（2010～2012年度）連結中期経営計画」で掲げた石油精製販売事業の合理化及び変革、石油開発及び石油化学分野での中長期的な成長戦略を実現すべく各施策を着実に実行してまいります。

千葉製油所の復旧と再稼働につきましては、事故調査委員会の調査結果を踏まえ、安全の確保を最優先に取り組んでまいります。2012年3月期、

通期の予想につきましては、原油価格を1バレル108.00ドル、為替を1ドル78.90円を前提として、売上高3兆700億円（前期比2,985億円増収）、営業利益740億円（同301億円減益）、経常利益720億円（同241億円減益）、当期純利益130億円（同159億円減益）となる見通しです。

年間の配当は期末で8円とさせていただきます。

株主の皆様には、一層のご理解・ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

■2011年度通期の連結業績予想

（2011年11月2日公表）

●通期（2011年4月1日～2012年3月31日）（単位:億円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結	30,700	740	720	130

●受入原油価格、為替の前提

2011年度（2011年4月～2012年3月）前提
原油価格（ドバイ）=108.00ドル/バレル 為替=78.90円/ドル

業績予想の適切な利用に関する説明

業績予想につきましては、2011年11月2日の発表日において入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想と異なる場合があります。

要約四半期連結財務諸表

要約四半期連結損益計算書

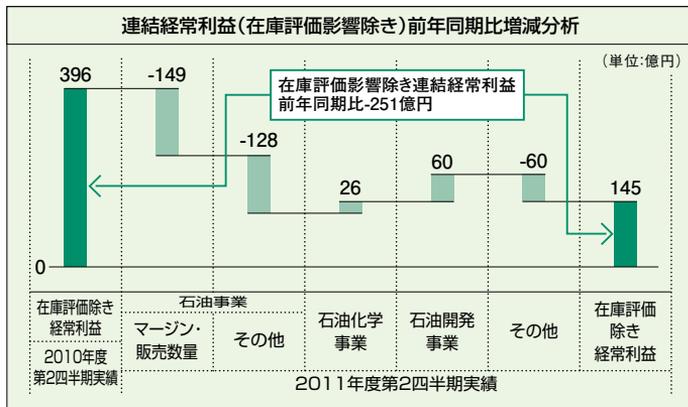
(単位:億円)

科 目	当第2四半期 (2011.4.1 ~ 2011.9.30)	前第2四半期 (2010.4.1 ~ 2010.9.30)
売上高	14,535	12,975
売上原価	13,636	12,044
販売費及び一般管理費	625	634
営業利益	275	297
営業外収益	81	45
営業外費用	80	74
経常利益	276	267
特別利益	5	4
特別損失	125	122
税金等調整前四半期純利益	157	150
法人税等	110	117
少数株主損益調整前四半期純利益	47	32
少数株主利益	19	19
四半期純利益	28	13

※億円未満を四捨五入しています。

販売価格の上昇等により増収
代替供給コスト等により減益

当第2四半期の連結売上高は、1兆4,535億円となり前年同期比1,560億円の増収、連結経常利益は276億円で前年同期比9億円の増益となりました。また、在庫評価の影響131億円を除いた連結経常利益は145億円となり、前年同期比251億円の減益となりました。その主な内訳は、マージンの悪化等で-149億円、千葉製油所の稼働停止に伴う代替供給コスト等で-128億円となる等、石油事業合計では-277億円となり、前年同期比減益の主な要因となっています。石油化学事業はマージンの改善等で+26億円、石油開発事業は原油高の影響等で+60億円、その他で-60億円となりました。四半期純利益は、震災関連の特別損失を86億円計上したものの、28億円となり前年同期比15億円の増益となりました。



要約四半期連結貸借対照表

(単位:億円)

科目	当第2四半期末 (2011.9.30)	前期末 (2011.3.31)
資産の部		
流動資産	8,421	7,934
固定資産	7,664	7,857
有形固定資産	5,899	6,036
無形固定資産	111	115
投資その他の資産	1,653	1,706
繰延資産	3	3
資産合計	16,088	15,794
負債の部		
流動負債	6,695	6,222
固定負債	5,955	6,070
負債合計	12,651	12,292
純資産の部		
株主資本	3,125	3,164
その他の包括利益累計額	119	164
少数株主持分	194	175
純資産合計	3,437	3,502
負債純資産合計	16,088	15,794

※億円未満を四捨五入しています。

要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

科目	当第2四半期 (2011.4.1～2011.9.30)	前第2四半期 (2010.4.1～2010.9.30)
営業活動によるキャッシュ・フロー	201	494
投資活動によるキャッシュ・フロー	-147	-385
財務活動によるキャッシュ・フロー	118	-1,185
現金及び現金同等物に係る換算差額	-7	-9
現金及び現金同等物の増減額	166	-1,085
現金及び現金同等物の期首残高	943	2,289
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,109	1,204

※億円未満を四捨五入しています。

●資産の部

総資産は、冬場の需要期に向けた在庫の積み上げ等でたな卸資産等が増加したことにより、前期末比294億円増加しました。

●負債の部

負債は、有利子負債の増加等により、前期末比359億円増加しました。

●純資産の部

純資産は、前期末比65億円の減少となり、自己資本比率は20.2%となりました。



事業領域の拡大と環境事業推進のため 風力発電事業の拡大を図ります

電力の安定供給と地球温暖化防止は、これからの社会の大きな課題です。コスモ石油グループは、風力をはじめとする再生可能エネルギーの利用を促進し、社会の課題の解決に貢献することで、中長期の成長を図っていきます。

コスモ石油グループは、エネルギーの安定供給を企業使命として、再生可能エネルギーの利用促進に取り組んできました。風力発電事業に関しては、2004年から山形県酒田市（風車数：1基）で実施してきましたが、2010年3月に風力発電業界4位のエコ・パワー株式会社（風車数：130基）を買収し、グループ会社としたことで、本格的な事業参入を果たしました。2011年3月末現在、コスモ石油グループの風力発電設備は、基数131基、総発電能力148,510キロワットとなり、年間約14万トンのCO₂排出量削減に貢献できる見込みです。また事業運営に関しては、エコ・パワー社のメンテナンスの強化を図り、

風車の稼働率を向上させることに成功し、2011年3月期には買収後初年度での黒字化を達成しました。

日本の風力発電の現状

現在、日本には約1,800基の風車（2010年度末）が設置されており、設備容量は約2,442MW*（メガワット）となっています。エコ・パワー社の設備容量は、全国シェアの約6%を占めています。一方、海外での風力発電の普及状況を見ると、毎年前年比20~30%の伸びを示しており、総設備容量は、2010年末で194,390MWに達しています。国別のシェアで見ると中国が21.8%

*MW(メガワット)=1,000kW(キロワット)

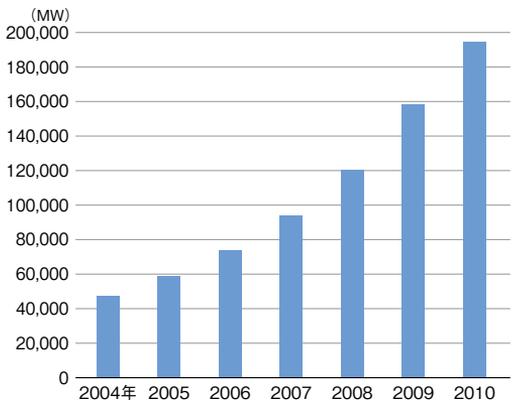
でトップ、2位はアメリカで20.7%、3位はドイツで14.0%となっている一方、日本は12位で、シェアはわずか1.2%にとどまっているのが現状です。

出典：(社)日本風力発電協会ホームページ

エコ・パワー社の特長

エコ・パワー社は1997年に設立され、風力発電業界における老舗企業であり、北海道や東北地方を中心に風況の良い場所に多くの風車を保有しているのが特長です。風車は常に厳しい自然環境にさらされており、効率的な発電を行うためには、風車を常時稼働可能な状態にしておくためのメンテナンスが非常に重要となります。エコ・パワー社はメンテナンス要員の増強や、交換部品の在庫管理の方法を工夫するなど、メンテナンスの向上に取り組み、風車の稼働率向上を実現しました。

世界全体の風力発電導入量(累計)の推移



出典：GWEC, Global Wind 2010 Report

エコ・パワー社の風力発電所

全国25地点130基の風車で発電しています。



風況が良い、北海道や東北地方に多くのサイトを有しています。

風力発電は、環境負荷の少ないクリーンな発電方式であり、社会の期待もますます高まっています。

エコ・パワー社は再生可能エネルギーによる電力の全量買取制度が法制化されたことを受け、引き続きメンテナンスの向上に取り組むとともに、新規サイト建設による発電能力の拡大も視野に入れて事業を展開してまいります。

会社概要

商号	エコ・パワー株式会社
資本金	61億6,485万円
所在地	東京都品川区大崎1-6-1
設立	1997年7月1日
代表	代表取締役社長 周布 兼定
事業内容	風力発電による売電事業 その他
URL	http://www.eco-power.co.jp/

特集2：コスモビークルリース



“コスモビークルリース”を石油販売事業の新たな収益の柱として展開していきます

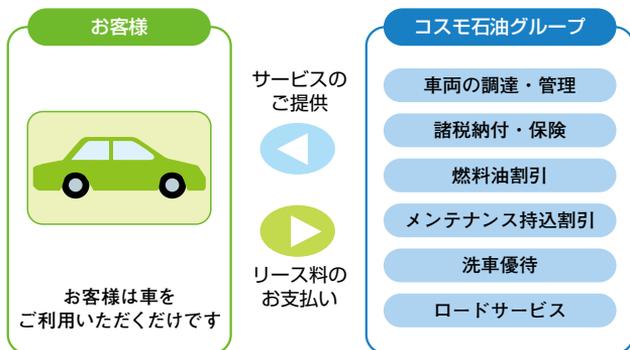
2010年12月にスタートした「コスモビークルリース」。クルマの提供から給油・税金・車検整備・定期点検まで、ワンストップで快適なカーライフをお届けするシステムは、コスモステーションの役割を変革する可能性を秘めています。



快適なカーライフをサポートする コスモビークルリース

コスモステーションに来店されるお客様のニーズの本質は、「ガソリンがほしい」ではなく「快適なカーライフを送りたい」というところにあります。コスモビークルリースは、こういったお客様のニーズにお応えし、カーリースのメリット

■コスモビークルリースのシステム



お客様には月々一定のリース料をお支払いいただくだけで、車両の調達から、車検・保険、給油や洗車の割引など車周りのサービスをワンストップでご提供します。

と、コスモステーションのサービスを一体化させた新たなビジネスモデルです。

お客様は、月々一定のリース料金をお支払いいただくだけで、車の調達から車検、整備はもちろん、燃料油の割引や洗車優待、メンテナンスの持込割引など、車周りの全てのサービスをワンストップで受けられます。

一方、当社グループは、コスモ石油ブランドとして信頼性が高いサービスを提供することで、長期間にわたり、お客様との良好な関係を築き、より多くの収益性を確保することが可能になります。将来的には、ハイブリッド車や電気自動車が普及し、給油のために来店されるお客様が減っていくことが予想されます。そうした状況でも安定的に収益を確保できるコスモビークルリースのシステムは、石油販売事業において大きな役割を担っていくと期待を集めています。

ビジネスモデル特許を申請 コスモ石油独自のサービスを提供

コスモビークルリースは、当社グループの強みをベースに開発された事業で、燃料油割引やメンテナンス持込割引など当社独自のサービスについてはビジネスモデル特許を申請しています。また、サービス実現の鍵となる顧客情報システムについても、当社は367万人(2011年3月末時点)のコスモ・ザ・カード会員の情報管理システムの運用実績があるため、これをカスタマイズすることで、ローコストでのシステム構築が可能となりました。

カーリースに関しては、全体では成熟した市場となっていますが、これは、既存市場の大半が大企業の社有車を対象としているため、個人や中小企業の自動車利用者において、カーリースを利用されているのは、中小企業においては3%、個人にいたってはわずか0.2%に過ぎません。コスモビークルリースは、このような個人や中小企業のお客様を対象としていることが

■ オートリースの市場

	保有台数	リース台数	リース率
大企業	400万台	240万台	60%
中小企業	2,100万台	60万台	3%
個人	5,100万台	10万台	0.2%
総計	7,600万台	310万台	4%

大手リース会社の顧客層

コスモビークルリースのターゲット層

大きな特長で、今後大きな可能性が見込まれます。より多くの方々にお知らせするため、コスモ・ザ・カード会員の方々に対し会員誌でコスモビークルリースをご案内したところ、多くのお問い合わせをいただきました。今後とも、コスモステーションにおける新しい収益の柱として、事業に取り組んでまいります。

※コスモビークルリースについてのお問い合わせ
電話：0120-530372（フリーダイヤル）

コスモビークルリースで 被災地支援

東日本大震災の被災地である岩手県、宮城県、福島県の沿岸部の自治体向けに、「コスモビークルリース」のサービスの無償提供を6月中旬より行っています。津波の被害に見舞われた沿岸部自治体では、多くの公用車も流出しました。現在は支援物資の輸送やボランティアの方々の移動などに役立てていただいています。



岩手県釜石市で支援活動を実施

特集3：環境・社会貢献活動

コスモ石油は、社員やお客様とともに、 平和で心豊かな社会づくりに貢献しています

コスモ石油は、「企業は社会の一員である」という認識のもと、社員一人ひとりが環境・社会貢献マインドを持って活動できる企業風土の醸成に取り組んできました。

また、お客様とともに環境保全に取り組むプロジェクトとして、「コスモ石油エコカード基金」による活動も行っています。

コスモ石油は、地球と人間と社会の調和と共生を図り、持続可能な発展をめざすことを経営理念に定め、社員や幅広く社外からの参加を促し、環境・社会貢献活動に取り組んできました。

社員が主体的に参加する環境・社会貢献活動は1993年、自然体験プログラム「コスモわくわく探検隊」からスタートしました。また1995年からは、全国FMラジオ局とのパートナーシップによる「コスモ アースコンシャス アクト」を通じ

て、広く世の中に環境メッセージを発信しています。2002年からは、お客様とともに国内外で環境保全活動に取り組むプロジェクト「コスモ石油エコカード基金」の活動も開始しました。この活動が評価され、10月には基金の支援団体の母体であるオイスカ・インターナショナルから特別功労賞を受賞しました。今後とも、よりよい社会づくりに向けて積極的に環境・社会貢献活動を続けていきます。

社会貢献活動のコンセプト

- 未来の社会をつくる子どもたちの啓発
- 人間社会が存続するための基盤である地球環境の保全
- 平和で心豊かな文化的社会の構築

社会貢献活動の基本方針

- コスモ石油としてオリジナリティのある活動を行う
- 社員が参加して活動する
- 経営状況に左右されず長期継続する

子ども・環境・社会 をテーマにした 活動

- ★ コスモわくわく探検隊
- ★ パパとキッズのアートプログラム
- ★ クリスマスカード・プロジェクト 他

環境メッセージ の発信

- 「コスモ アースコンシャス アクト」
- ★ ラジオ番組 環境 CM・広告
- ★ クリーン・キャンペーン 他

コスモ石油 エコカード基金 による活動

- 「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクト
(海外活動) ★ 植林支援 他
- (国内活動) ★ 学校の環境教育支援 他

◇◇◇ 子ども向け環境教育プログラム ◇◇◇
第19回コスモわくわく探検隊

交通遺児の小学生を対象とした自然体験プログラム「コスモわくわく探検隊」を8月4日～6日の2泊3日で実施しました。19回目となる今回は、「森でくらす。冒険しよう!!」をテーマに、山梨県都留市の「宝の山ふれあいの里」において開催。子どもたちは森の中を冒険しながら薪を拾い集めたり、魚取りや山菜・野イチゴ採集をしたり、満天の星空の下で流れ星を探しながら眠りにつくなど、さまざまな体験を通じて、自然環境の大切さを学びました。13名の社員ボランティアは、子どもたちの安全・健康管理のために、本番と同様の事前現地研修を実施してプログラムに臨みました。



浅瀬での川遊びなどの体験を通じて自然の大切さを実感



◇◇◇ コスモ アースコンシャス アクト ◇◇◇
クリーン・キャンペーン in Mt.FUJI

富士山の清掃活動とエコトレッキングを7月23日～24日の1泊2日で実施しました。これは、TOKYO FM 及び JFN (全国 FM 放送協議会) とともに実施している「コスモアースコンシャスアクト」の活動の一環で、全国の山、川、海、湖、公園を舞台に、自然と親しみながら行う清掃活動です。全国から集まった10～70歳のリスナー100名、当社社員及びJFN関係者45名に加え、アルピニストの野口健さんにもご参加いただきました。1日目はゴミの不法投棄により人間の手で汚されてしまった富士樹海の清掃活動を行い、2日目には富士山の原生林でエコトレッキングを行いました。



樹海の清掃活動と原生林のエコトレッキングを同時に体験



ニュース・ヘッドライン

当社が発表した最近のニュースについて、主な項目と内容の一部をお知らせします。
詳細は当社のホームページからご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.cosmo-oil.co.jp/>

2011年

10月14日	ヒュンダイオイルバンクとの技術/研究分野における覚書締結について	4
10月11日	ALA (5-アミノレブリン酸) 入り家庭園芸用液体肥料 新商品発売について	3
10月 5日	当社千葉製油所における合同事業所防災訓練実施について	2
9月21日	コスモ石油エコカード基金「エコ」会員向け「ビオトープ浮島 水辺の生態系回復プロジェクト」エコツアー 実施のご報告	
9月20日	お父さんと子どものワークショップ「パパとキッズのアートプログラム part3 ～世界でたった1つのポートレート～ with ノッポさん」香川・丸亀市 猪熊弦一郎現代美術館での開催のご報告	5
8月31日	「イオンカード会員向けときめきポイント5倍キャンペーン」実施の件	
8月 8日	「第19回コスモわくわく探検隊」実施のご報告	
8月 2日	千葉製油所火災爆発事故の概要・事故原因及び再発防止策等について	
7月28日	コスモ石油エコカード基金10周年記念 "いのちとココロを育む 「種まき塾の里親プロジェクト」" について	
7月25日	コスモ アースコンシャス アクト クリーン・キャンペーン in Mt.FUJI ～みんなで拾おう！みんなで支えよう！～ 実施のご報告	
7月15日	「コスモ石油エコカード基金活動報告書2011」発行について	
7月11日	パラキシレン製造装置の鋳入れ式実施について	1
7月 6日	「コスモ・ザ・カード・オーパス」に電子マネー「WAON」を搭載！	6
6月30日	経済産業省原子力安全・保安院からの認定取り消し等について	
5月26日	「コスモビークルリース・レンタカー」による被災地支援実施について	

※ニュースの内容により色分けしています。 トピックス／CSR・社会貢献／IR／環境

※上記の日付はプレスリリース日です。

1

韓国のヒュンダイオイルバンク大山製油所で パラキシレン製造装置の鋳入れ式を開催しました

当社は、第4次連結中期経営計画における成長戦略の一環として、中国等アジア地域における市場の成長を見据えた石油化学事業の拡大を推進しています。当社とヒュンダイオイルバンク株式会社（HDO）の合弁会社であるHCペトロケム株式会社は、パラキシレン製造設備の新設に向けて、7月8日にHDO大山製油所で鋳入れ式を開催しました。パラキシレンは、ポリエステル

繊維やペットボトルの原料となる石油化学製品の原



HDO大山製油所での鋳入れ式の様子

料で、中国やインドの経済成長や人口増大を背景に、堅調な需要の伸びが見込まれています。

▶ http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_110711/index.html

2

千葉製油所において近隣企業や監督官庁のご協力のもと 大規模地震を想定した合同事業所防災訓練を実施しました

3月11日に発生した千葉製油所の火災・爆発事故を受け、コスモ石油はグループ全社を挙げて再発防止策に取り組んでいます。その活動の一環として、大規模地震を想定した合同事業所防災訓練を10月5日に実施しました。今回の防災訓練は、大規模地震が発生したことにより、ナフサタンク周辺で石油製品が大量漏洩し、その後火災が発生した前提で実施、通常の訓練内容に加え、近隣企業や監督官庁との連携や伝達手段の確認、また近隣住民の方々に向けた広報活動訓練も実施しました。当社グループは、今回の防災訓練の結果を踏まえ、不測の災害や緊急事態が発生した際にも被害を最小限に

抑えるよう、今後とも再発防止策に全力で取り組んでまいります。

▶ http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_111005/index.html



通常の防災訓練に加え、近隣企業や監督官庁との連携や伝達手段の確認なども実施しました

ニュース・ヘッドライン

3

ALA入り肥料の市場拡大に向け
新商品をリリースしました

当社の子会社、コスモ誠和アグリカルチャ株式会社は、ALA (5-アミノレブリン酸) 入り家庭園芸用液体肥料の新ラインナップとして「ペンタガーデンValue野菜&果物用」「ペンタガーデンPRO ワンプッシュ」を2012年1月から販売します。新たなラインナップを加えることで、今後ともALA入り肥料市場の拡大を図ってまいります。



ペンタガーデン Value 野菜 & 果物用 (左)
ペンタガーデン PRO ワンプッシュ (右)

▶ http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_111011/index.html

4

韓国のヒュンダイオイルバンクと
技術／研究分野における覚書を締結

当社とヒュンダイオイルバンク株式会社 (HDO) は、2008年4月に締結した「石油事業包括協力覚書」に基づいた協力範囲を、今後さらに発展・具体化することを目的として、技術／研究分野における覚書を締結しました。11月にHDOがソウル市郊外に新R&Dセンターを開所したことを機に、石油製品、石油化学及びその他エネルギー事業の研究開発活動の強化を進めるための技術委員会を設置し、今後具体的な検討を行うこととしました。

▶ http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_111014/index.html

コスモ SS 新店舗 オープン情報

2011年6月から2011年10月にオープンしたコスモ石油のサービスステーションを紹介いたします。



■6月オープン

◎東大阪SS 大阪府東大阪市

■7月オープン

◎豊四季SS 千葉県柏市

◎ホワイトスピリッツセルフ高田SS 新潟県上越市

◎セルフ大木SS 福岡県三潴郡大木町

■8月オープン

◎ニュー牛久SS 千葉県市原市

■9月オープン

◎野田SS 千葉県野田市

■10月オープン

◎入間インターSS 埼玉県入間市

◎セルフ&カーケアセンター北白川SS 京都府京都市

※店舗の詳細は、当社ホームページをご覧ください。
<http://www.cosmo-oil.co.jp/ss/open/index.html>

5

「パパとキッズのアートプログラム part3～世界でたった1つのポートレート～with ノッポさん」を開催

当社は社会貢献活動の一環として、「父親の育児参加を応援する」ことを目的としたアートワークショップ「パパとキッズのアートプログラム」を全国の支店所在地で開催しています。9月19日、香川県丸亀市の猪熊弦一郎現代美術館で開催したワークショップには、20組43名の父親が参加。タレント、ノッポさんのアドバイスを受けながら、微笑ましいやりとりを繰り返し、世界でたった1つの父子のポートレートを仕上げました。当社の社員もボランティアとして活動の運営をお手伝いしました。

▶ http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_110920/index.html



父子と一緒に楽しみながら1つの作品をつくり、ノッポさんと楽しいひとときを過ごしました

6

「コスモ・ザ・カード・オーパス」に電子マネー「WAON」を搭載

当社とイオンクレジットサービス株式会社は、2006年の「コスモ・ザ・カード・オーパス」発行以来、カード事業での協業を通じて、お客様の利便性向上や新規顧客の開拓に取り組んできました。この度、「コスモ・ザ・カード・オーパス」に、イオングループの電子マネー「WAON」を利用できる機能を搭載。新たな魅力を付加することで、お客様満足度を向上し、カード事業のさらなる拡大を図っていきます。



WAON 機能を搭載した「コスモ・ザ・カード・オーパス」

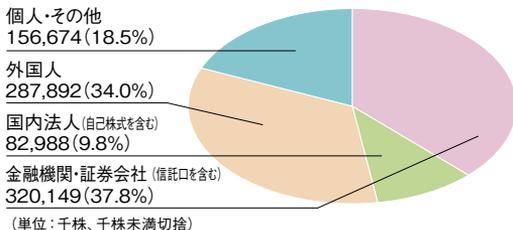
▶ http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_110706/index.html

※「コスモ・ザ・カード・オーパス」に関するホームページ
<http://www.aeonmarket.com/loan/opus/index.html>

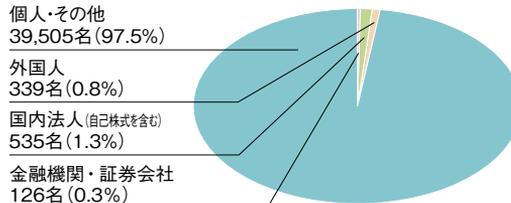
株式情報

(2011年9月30日現在)

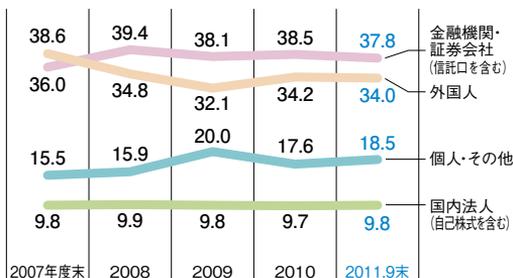
発行済株式の総数 847,705,087株



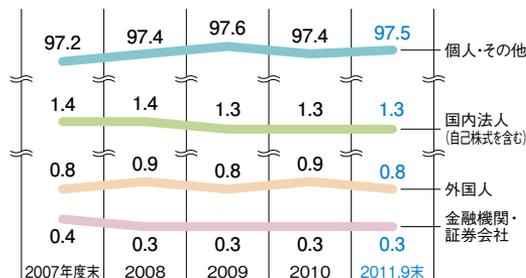
株主数 40,505名



発行済株式数の所有者別推移 (単位:%)



株主数比率の推移 (単位:%)



社債の状況 (単位:億円)

■無担保社債

	発行日	前期末残高	当第2四半期末残高	償還期限
第20回	2010.1/29	150	150	2017.1/31
第21回	2010.9/21	220	220	2015.9/18
第22回	2010.12/9	100	100	2014.12/9
第23回	2010.12/9	100	100	2016.12/9

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
インフィニティ アライアンス リミテッド	176,000	20.76
日本ラスティサービス信託銀行株式会社(信託口)	57,459	6.77
株式会社みずほコーポレート銀行	31,320	3.69
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	20,829	2.45
株式会社三菱東京UFJ銀行	19,750	2.32
三井住友海上火災保険株式会社	18,878	2.22
関西電力株式会社	18,600	2.19
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	18,583	2.19
東京海上日動火災保険株式会社	17,335	2.04
株式会社損害保険ジャパン	15,792	1.86

注)持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
期末配当金 3月31日
支払株主確定日 3月31日
1単元の株式の数 1,000株
株主名簿管理人 中央三井信託銀行株式会社
東京都港区芝三丁目33番1号
郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目
8番4号
中央三井信託銀行株式会社証券代行部
電話照会先 電話 0120-78-2031(フリーダイヤル)
取次事務は中央三井信託銀行の全国
各支店ならびに日本証券代行株式会
社の本店及び全国各支店で行って
おります。
公告方法 電子公告の方法により行います。
ただし、電子公告によることができ
ない事故、その他やむをえない事由
が生じた場合は、日本経済新聞に掲
載します。
公告掲載 URL
[http://www.cosmo-oil.co.jp/
ir/notice/index.html](http://www.cosmo-oil.co.jp/ir/notice/index.html)
上場取引所 東証一部・大証一部・名証一部

住所変更、単元未満株式の買取・買増等 のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設され
ました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央
三井信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払い配当金の支払いについて

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社
にお申し出ください。

コスモ石油株主通信『シーズ・メール』70号

発行/コスモ石油株式会社 コーポレートコミュニケーション部 IR室 〒105-8528 東京都港区芝浦一丁目1番1号
TEL.(03)3798-3180 FAX.(03)3798-3841
ホームページ <http://www.cosmo-oil.co.jp/>

誌名『C's MAIL(シーズ・メール)』には、「C(コスモ)の手紙」の意味を込めました。株主の皆様、心の通った情報を提供したいという当社の願いを、この名前に託しています。
